発表タイトル	市販 DVD 映画を用いた Web－CALL システム
発表者所属名	文化科学研究科メディア社会文化専攻
発表者氏名	大倉孝昭　(http://universal.nime.ac.jp/streaming/WebCALL/Webdvd.htm)

発表内容

１．研究背景と位置付け

言語コミュニケーションには，その場の雰囲気，ジェスチャー，表情，話者間の距離などのmeta-linguisticな特徴が重要であることは周知である．表面的な言語の裏にある人間の集合体を観察し，その表面にある言語をより深く理解しようとする“Textography”(Swales 1998)はその理論的裏付けである．映画を学習教材として取り入れようという研究は多く、“CC (Closed Caption) 付きビデオを利用したマルチメディア型デ-タベ-スの構築”(Sato，H．1996)、海外でも「キャプション付き教材を利用した学生は，理解，リスニング力，語彙獲得力，そしてすべての読解に関る動機付けにおいて，顕著な学習効果を発揮する」と報告されている(Goldman and Goldman 1988).

しかしこれまでは，学校のＣＡＬＬ教室以外で映画を繰り返し見ながら聞き取り･空所補充をするといったCALLの課題を課すことは不可能であった.

そこで，大倉は映画 DVD を学習者が1枚ずつ所持し，個別に学習するシステム (CaptionMaster) を MS excel を基盤に開発した．これにより映画を使っての個別学習が可能となり，著作権に対する懸念を払拭した．その後，複数の共同研究を通じ，映画ＤＶＤを用いた英語教育の開発･実践の研究を続けてきた．ただ，CaptionMaster は excel 上に構築されたので，学習を後回しにして映画を楽しむ，日本語字幕を表示したままで学習する，吹き替え音声で学習の負荷を下げようとするなど，教授目的に沿わない学習行動が散見された．さらに，映画タイトルごとに excel のファイルを作成する必要があった。

２．問題解決の方法

CALL システムを CALL 教室外でも利用可能とするため，ネットワーク接続された PC であれば何処からでも利用できるよう，Web サーバー上に構築することを目指した.

解決1：Shockwave Player 上で動作する DVD player を新たに開発･実装した.

解決2：再生経過時間に索引づけられた課題のため，MS Office Web Components を採用した.

解決3：各 PC がデータベース･サーバーを経由して環境設定値を短いサイクルで取得する方式により，環境設定値を学習者が共有する方式をとった.

解決4：入力用以外に非表示のスプレッドシートを2枚組み込み，そこに課題データと操作履歴を残すことにした.

解決5：学習者用ページでは，教室モードと自習モードを設定値によって識別するようにし，教室モードでは字幕のon･off，音声言語の切り替え，特定チャプターだけの限定再生などを許可制 (教師ページ上の設定値) とした.

図１　Web ページ左側の説明

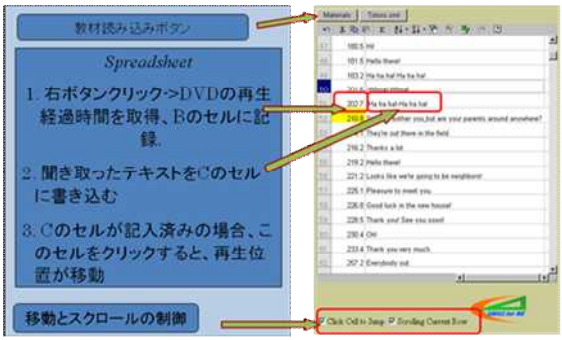

図２　Web ページ右側の説明